

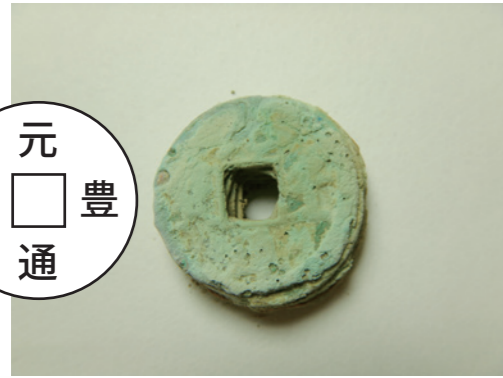
### 鵜殿西遺跡 (第5次) 発掘調査



石鍋 (西彼杵産)



これまでの調査で出土した主な遺物



宋銭 (元豊通宝)

元  
寶 □ 豊  
通

### 調査成果 (平成30年度～令和3年度)

鵜殿西遺跡では、東西・南北に多数の溝が掘られていました。これらの溝は土地を区画し溝と溝の間は道路として利用されていたと考えられます。

中央の区画には西約13m・南北約11mもある大型の建物があり、有力者の邸宅と考えられます。建物はこれまでに14棟見つかり、建物や溝の配置から、鵜殿西遺跡では、土地を計画的に利用していたことがわかります。また、溝には断面がV字状をしたものがあり、背後の鵜殿城跡もあわせて、外敵に備えた防御の役割も果たしていたのでしょう。

遺物は縄文土器や中世から近世の土器や陶磁器が出土しています。山茶碗(やまぢゃわん)、土師器鍋などが多いことから、この遺跡の中心は、中世(平安時代後期～室町時代)と考えられます。中国からの輸入品である青磁や白磁、日本各地の土師器や陶磁器が出土していることから、海を介した交易が盛んだったと考えられます。



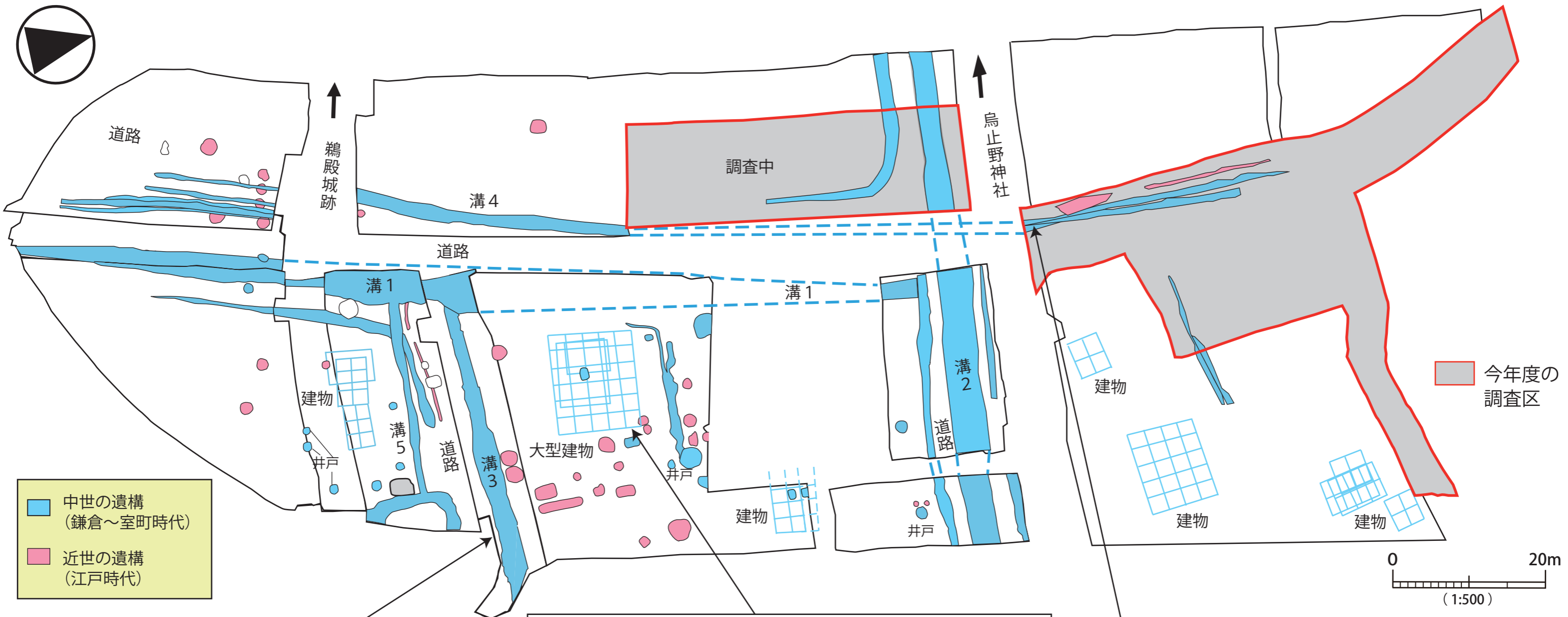
鵜殿西(うどのにし)遺跡は、熊野川河口部の北岸に立地する遺跡です。

この地には、今から800年ほど前、鵜殿荘(うどのしょう)という荘園(しょうえん)があり、ここを治めていた鵜殿氏は熊野那智大社の執行(長官)なども務めていました。4年にわたる発掘調査の結果、当時の鵜殿は中世都市・新宮の一角として重要な位置を占めていたことがわかってきました。

今回の調査では、中世(鎌倉～室町時代)の溝などの遺構が見つかりました。出土した遺物は、瀬戸や常滑・渥美(愛知県)産の陶器や西彼杵(にしそのぎ:長崎県)産の石鍋、畿内産の瓦器のほか、宋銭(元豊通宝)、中国製の青磁や白磁といった高級品もありました。これらは、海を介した交易で運ばれてきたものと考えられます。



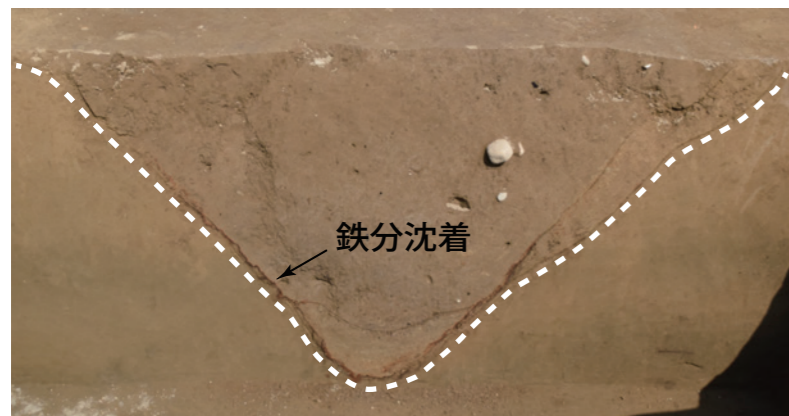
調査名: 鵜殿西遺跡 (第5次) 調査  
調査面積: 1,712㎡ (予定)      調査期間: 令和3年8月30日から令和4年1月21日 (予定)  
原因事業: 一般国道42号新宮紀宝道路建設事業      経費負担: 国土交通省近畿地方整備局紀南河川国道事務所  
調査主体: 三重県教育委員会  
調査担当: 三重県埋蔵文化財センター 〒515-0325 多気郡明和町竹川503  
TEL: 0596-52-1732 FAX: 0596-52-7035  
E-mail: maibun@pref.mie.lg.jp HP: https://www.pref.mie.lg.jp/maibun/hp/  
熊野整理所 〒519-4325 熊野市有馬町4621-32  
TEL: 0597-89-5570 FAX: 0597-89-5572



**【V字状の溝】 ※令和2年度調査**

東西方向の溝（溝3）を確認しました。幅約2m、深さは約0.8m、延長は20m以上あります。溝の底部には鉄分が沈着(ちんちやく)していました。溝には常に水が溜まっており、断面がV字状をしています。

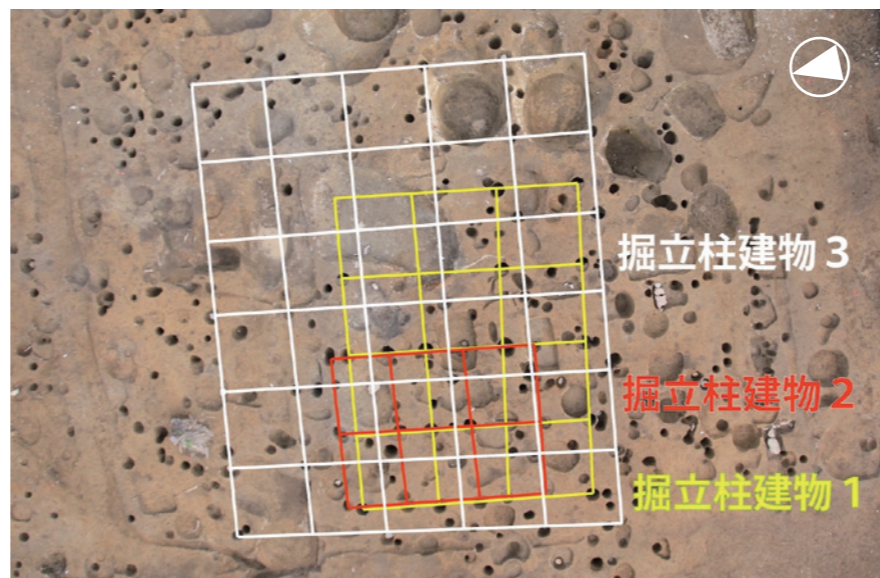
溝3と溝5の間は、遺構が少なく、道路として利用されていたと考えられます。



**【大型の掘立柱建物】 ※平成30年度調査**

掘立柱建物 1→2→3の順番に建てられていることがわかりました。掘立柱建物3は、東西12.8m、南北10.7mの大きさです。建物は、比較的高く、安定した水はけのよい場所にあります。

建物の位置や大きさから、鶺殿氏など有力者の館と考えられます。



**【2区】**

南北方向の溝を2本確認しました。幅約1m、深さ約0.8mで延長は20m以上あり、埋土からは山茶碗や瓦器碗、宋銭などが出土しました。中世（鎌倉時代～室町時代）に機能していたと考えられます。

